

ドラクター+マジ

その夜、神戸・三宮の繁華街を歩いていたら、方々から聞こえてきたのは、「ヤングマン」と「傷だらけのローラ」。この瞬間、日本中で何干、いや何万という人が秀樹さんの曲を歌っている……これって「国民葬」じゃないか！ 気づけば私も、夜更けの街角で秀



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のない死に方」は、痛くないベストセラ―。関西国際大学客員教授。

私事ですが今夏、還暦を迎えるにあたり生前葬を行うことを決めました。ここまで生かしていただいた皆様への感謝の会です。「カズヒロ、カンレキーカングケキ」と書いた案内状が刷り上がってきた日、西城秀樹さんの訃報が飛び込んできました。5月16日、急性心不全で逝去。63歳でした。

55 西城秀樹



命を完全燃焼させた

医師として感謝するばかりです。

2度の脳梗塞の後遺症と闘い続けた秀樹さんの見事な生き方は、すでにさまざまな報道でご承知かと思えますので、今日は脳梗塞とリハビリに焦点を当ててお話ししましょう。

脳梗塞とは脳の血管が詰まる疾患です。脳内出血やクモ膜下出血などと合わせて脳卒中と総称されます。わが国の脳血管疾患の総患者数は約118万人(2014年度)。このうち、脳梗塞が約7割を占めています。脳梗塞の治療は時間との闘いです。めまいやふらつき、手足のしびれや脱力感、急に言葉が出なくなる、物が二重に見えるなどいつもと違うなと思ったときは、直ちに脳外科のある病院に行き、正確な診断と最新治療を受けてください。最近では心臓細動に由来する脳塞栓(そくせん)症に対し、カテーテルによる血栓回収療法ができる時代になりました。

その様子をあえてテレビで何度も見せたのは、同じようにリハビリを続けている人に希望を持ってほしかったからだといえます。

秀樹さんは、2003年に最初の、11年に2度目の脳梗塞になりました。「2度目のときはもう死にたいと思った」そうですが、それでも「もう1度ステ―ジに立ちたい」という想いから、相当ハードなリハビリを続けていました。1日3時間、週5日通われていたときもあつたとか。

で挫折したり、いらだちのあまり家族と衝突する人もいます。大切なことはリハビリ専門医や理学療法士など専門スタッフについて、二人三脚で根気よく続けることです。

歌っているときも、リハビリのときも、一生懸命な姿を隠さない人でした。63歳は早すぎますが、「命を完全燃焼させた」ようにもお見受けします。またリハビリの大切さを知らしめてくれたことには